

第12章 緑 地

第 12 章 緑 地

12-1 概 要

施設の存在時における緑地の状況について検討を行った。

12-2 調 査

現地調査により、現況の把握を行った。

(1) 調査事項

緑地の状況

(2) 調査方法

現地踏査により、現況の把握を行った。

(3) 調査場所

事業予定地内

(4) 調査時期

現地踏査は、平成 30 年 10 月 5 日（金）及び平成 31 年 2 月 28 日（木）に実施した。

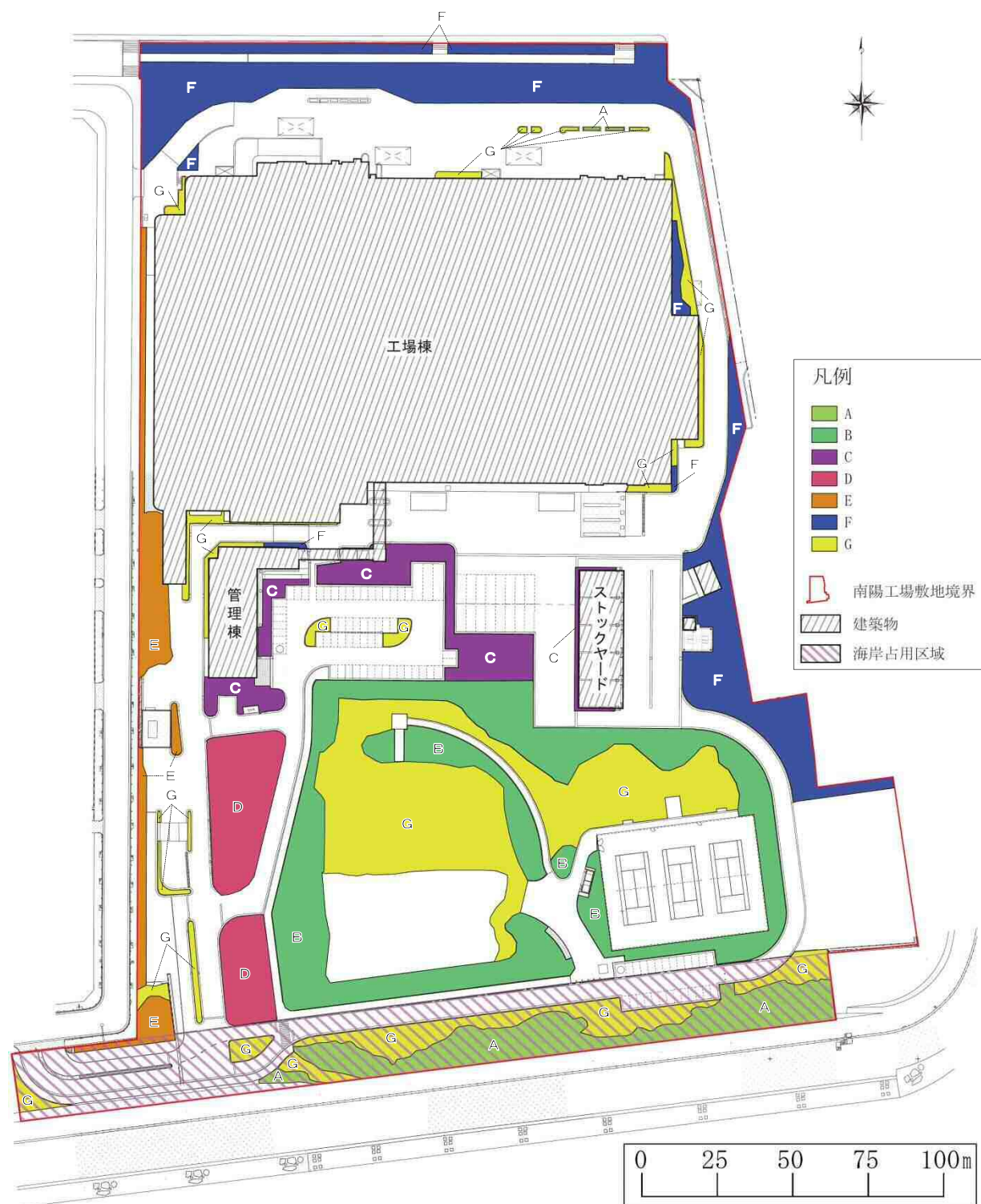
(5) 調査結果

事業予定地内における緑地の状況を図 2-12-1 に示す。

事業予定地内南側の海岸占用区域を除いた敷地面積は約 68,000m²、緑化面積は約 19,600m²であり、緑化率（事業予定地敷地面積に対する緑化面積の割合）は約 29%であった。

なお、海岸占用区域を含む敷地面積は約 74,000m²、緑化面積は約 22,800m²であり、緑化率は約 31%であった。

図 2-12-1 の各樹木区分における緑地パターン、樹高ごとの本数を表 2-12-1 (1), (2) に示す。



緑地 パターン	落葉広葉樹高木	常緑広葉樹高木	中・低木	地被類
A	-	-	ニシキウツギ、ヒラドツツジ	チガヤ
B	ナンキンハゼ、ソメイヨシノ	クスノキ、シラカシ	シャリンバイ、ウバメガシ	コウライシバ、ヘデラ・カナリエンシス
C	ナンキンハゼ、エノキ	マデバシイ、アラカシ	シャリンバイ、クチナシ	チガヤ、コウライシバ
D	ナンキンハゼ、ソメイヨシノ	クスノキ、マデバシイ	キンメツゲ、クチナシ	コウライシバ
E	フウ、ソメイヨシノ	キョウチクトウ、クロガネモチ	アセビ、アベリア	-
F	ケヤキ、ソメイヨシノ	マデバシイ、クスノキ	ユキヤナギ、アベリア	チガヤ
G	-	-	-	コウライシバ、チガヤ

注) : 各緑地の幹数の上位2種を記載した。

図 2-12-1 緑地の状況（現況）

表 2-12-1(1) 各樹木区分における緑地パターン、樹高ごとの本数

区 分	胸高直径 DBH (cm)	樹高 (m)	緑地パターン別の本数						
			A	B	C	D	E	F	合計
落葉広葉樹高木	4-5	4-5		1					1
	5-10	4-5		10	1	3	1	4	19
	5-10	5-6		11				1	12
	5-10	6-7		1					1
	10-15	4-5		14		7		5	26
	10-15	5-6		11			1	14	26
	10-15	6-7		10		2			12
	10-15	7-8		2					2
	10-15	8-10		1					1
	15-20	4-5		4	1		7	1	13
	15-20	5-6		5	3	3		6	17
	15-20	6-7		3				2	5
	15-20	7-8		3				1	4
	15-20	8-10		1					1
	15-20	13-16						1	1
	20-25	5-6					1	1	2
	20-25	6-7		1				1	2
	20-25	7-8		2				2	4
	20-25	8-10					2		2
	20-25	10-13					1		1
	25-30	5-6					5	4	9
	25-30	8-10						8	8
	25-30	10-13					1		1
	30-40	5-6						1	1
	30-40	6-7		1					1
	30-40	7-8		1		1	6		8
	30-40	8-10					1		1
	30-40	10-13				1			1
	30-40	13-16					1	23	24
常緑広葉樹高木	5-10	4-5		14	37	3	5	10	69
	5-10	5-6		3				1	4
	5-10	6-7						1	1
	10-15	4-5		12	22	3	19	7	63
	10-15	5-6		8		1			9
	10-15	6-7		2					2
	15-20	4-5		1				14	15
	15-20	5-6		4		2		2	8
	15-20	6-7		3				3	6
	15-20	8-10						2	2
	20-25	4-5					4	4	8
	20-25	5-6				2	14		16
	20-25	7-8			1				1
	25-30	5-6						2	2
	25-30	6-7						5	5
	25-30	7-8						1	1
	30-40	6-7						3	3
	30-40	8-10		1					1
	30-40	13-16						1	1
	40-50	10-13				1		1	2
	50-60	8-10						1	1

表 2-12-1 (2) 各樹木区分における緑地パターン、樹高ごとの本数

区 分	根元直径 D0 (cm)	樹高 (m)	緑地パターン別の本数						
			A	B	C	D	E	F	合計
中・低木	0-2	0-2		50		15		4,623	4,688
	0-2	2-3		4	3	50		1	58
	0-2	3-4			3	1		1	5
	2-3	0-2	408	204	21	177	48	173	1,031
	2-3	2-3		3	2	22		4	31
	2-3	3-4		2		6		11	19
	3-4	0-2		3,101	1,196	41		206	4,544
	3-4	2-3		26		4		4	34
	3-4	3-4			1	1		2	4
	4-5	0-2		12		19	976	15	1,022
	4-5	2-3		5			1	18	24
	4-5	3-4		4		12	1	1	18
	5-10	0-2		419		1	1	4	425
	5-10	2-3	14	26	2	6	13	56	117
	5-10	3-4	538	58	5	31	33	113	778
	10-15	0-2		2					2
	10-15	2-3		13					13
	10-15	3-4		25	1	4	22	13	65
	15-20	3-4		5			24	6	35
	20-25	3-4						3	3

注) 中・低木の本数については、地際で多数株立ちしている場合は幹数をカウントした。

12-3 予 測

(1) 予測事項

施設存在時の緑地の状況（位置、種類、面積及び緑化率）

(2) 予測対象時期

施設の存在時とした。

(3) 予測場所

事業予定地内

(4) 予測方法

事業計画に基づき推計した。なお、緑化面積及び緑化率は、「緑化地域制度」に準じて海岸
占用区域を除く面積を基に算出した。

(5) 予測結果

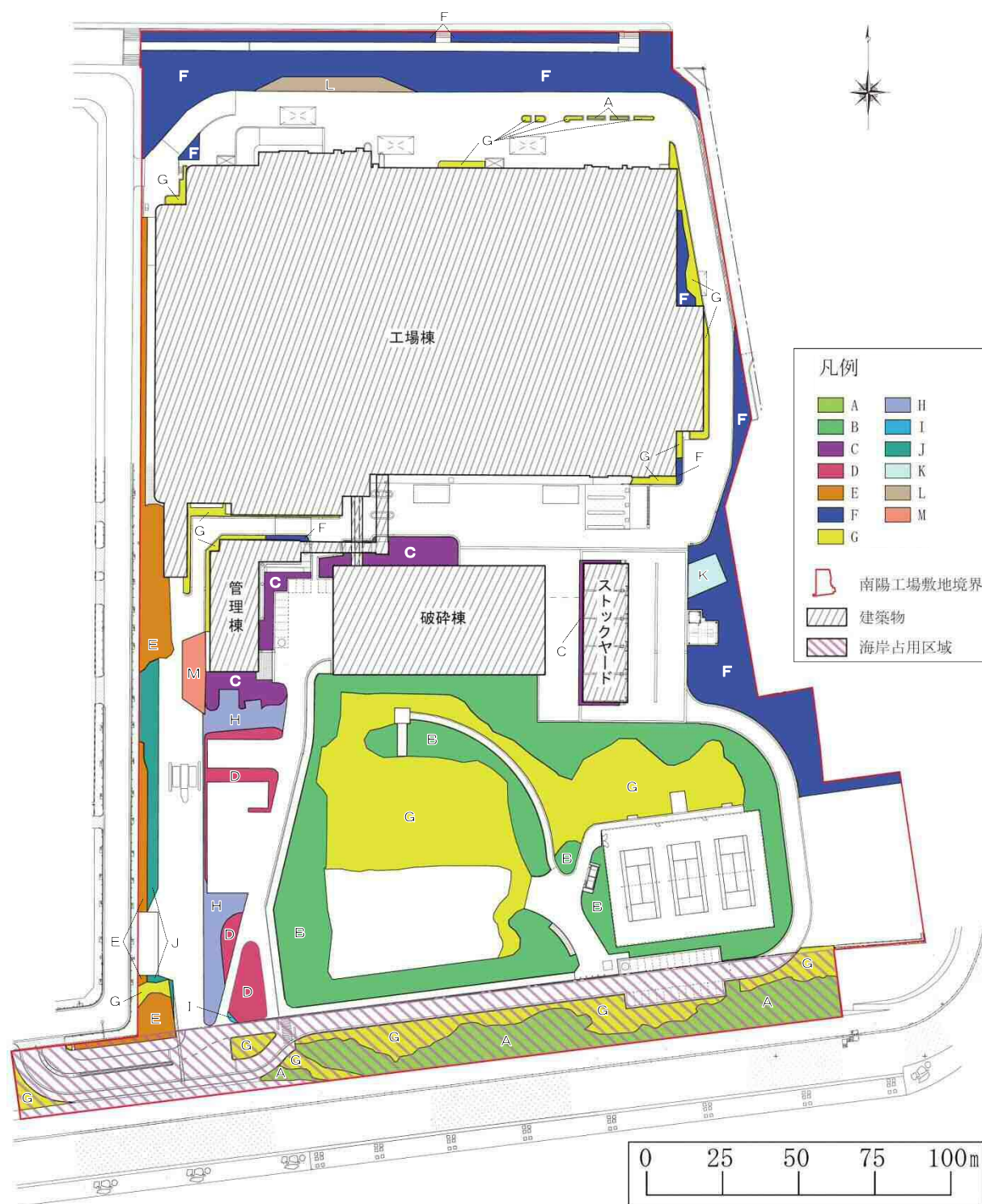
ア 緑地の位置

緑地の位置を図 2-12-2 に示す。

破碎棟の建設等に伴い現況の緑地の一部（緑地パターン C、D、E 及び G の一部）を撤去
するが、事業予定地内北側、南西側及び東側には新たに緑化を施すこととした。

イ 緑地の種類

新設する緑地の種類及び緑化面積を表 2-12-2 に示す。



区分	緑地パターン	落葉広葉樹高木	常緑広葉樹高木	中・低木	地被類
現況緑地	A	-	-	ニシキウツギ、ヒラドツツジ	チガヤ
	B	ナンキンハゼ、ソメイヨシノ	クスノキ、シラカシ	シャリンバイ、ウバメガシ	コウライシバ、ヘデラ・カナリエンシス
	C	ナンキンハゼ、エノキ	マテバシイ、アラカシ	シャリンバイ、クチナシ	チガヤ、コウライシバ
	D	ナンキンハゼ、ソメイヨシノ	クスノキ、マテバシイ	キンメツゲ、クチナシ	コウライシバ
	E	フウ、ソメイヨシノ	キョウチクトウ、クロガネモチ	アセビ、アベリア	-
	F	ケヤキ、ソメイヨシノ	マテバシイ、クスノキ	ユキヤナギ、アベリア	チガヤ
	G	-	-	-	コウライシバ、チガヤ
新設緑地	H	ソメイヨシノ	クスノキ、マテバシイ	クチナシ、キンメツゲ	コウライシバ
	I	-	-	クチナシ	コウライシバ
	J	ソメイヨシノ	-	アセビ	コウライシバ
	K	ケヤキ、ソメイヨシノ	クスノキ、マテバシイ	ヒドラツツジ	コウライシバ
	L	ケヤキ、ソメイヨシノ	クスノキ、マテバシイ	ヒドラツツジ	コウライシバ
	M	エノキ	マテバシイ	シャリンバイ	コウライシバ

注) : A～Gは各緑地の幹数の上位2種を、H～Mは各緑地に植樹する樹種を記載した。

図 2-12-2 緑地の状況 (計画)

表 2-12-2 新設緑地の種類及び緑化面積（計画）

緑地パターン	樹 種		樹高 (m)	本数 (本)	面積 (㎡)
H	落葉広葉樹高木	ソメイヨシノ	3.5	5	586.4
		クスノキ	2.0	5	
	常緑広葉樹高木	マテバシイ	1.5	5	
		クチナシ	0.4	370	
	中・低木	キンメツゲ	0.4	370	
		地被類	コウライシバ	－	
I	中・低木	クチナシ	0.4	12	9.3
	地被類	コウライシバ	－	－	
J	落葉広葉樹高木	ソメイヨシノ	3.5	11	399.6
	中・低木	アセビ	0.4	500	
	地被類	コウライシバ	－	－	
K	落葉広葉樹高木	ケヤキ	2.0	1	95.7
		ソメイヨシノ	3.5	1	
	常緑広葉樹高木	クスノキ	2.0	1	
		マテバシイ	1.5	1	
	中・低木	ヒラドツツジ	0.4	120	
	地被類	コウライシバ	－	－	
L	落葉広葉樹高木	ケヤキ	2.0	2	188.3
		ソメイヨシノ	3.5	2	
	常緑広葉樹高木	クスノキ	2.0	2	
		マテバシイ	1.5	2	
	中・低木	ヒラドツツジ	0.4	240	
	地被類	コウライシバ	－	－	
M	落葉広葉樹高木	エノキ	2.0	2	92.3
	常緑広葉樹高木	マテバシイ	1.5	2	
	中・低木	シャリンバイ	0.5	120	
	地被類	コウライシバ	－	－	
合 計					1,371.6

ウ 緑地の面積

新設する緑地等の緑化面積は、表 2-12-2 に示すとおり、約 1,400m²を予定している。一方、破碎棟の建設等により減少する緑化面積は約 2,000m²の予定である。

以上から、現況の緑化面積約 19,600m²に対し、計画施設の緑化面積は約 19,000m²となる。

エ 緑化率

海岸占用区域を除いた事業予定地の敷地面積は約 68,000m²で、緑化面積は約 19,000m²を計画しており、緑化率は約 28%となる。

12-4 環境保全措置

(1) 予測の前提とした措置

- ・工事中に一時的に緑地を撤去する場合には、供用時まで現況と同様の緑地を施す。
- ・新たな緑地の設置にあたっては、現況緑地とのバランスや生物多様性の保全に留意し、樹種を選定する。

(2) その他の措置

- ・緑地の維持・管理に関する年間スケジュールを立て、清掃、灌水、病虫害の駆除等を計画的に行う。
- ・緑地の配置については、今度、設計を進める中で車線の動線や滞車スペース等とあわせてさらに検討し、可能な限り緑地の確保に努める。
- ・新設する緑地における樹種の選定にあたっては、事業予定地内で確認された鳥類による利用に配慮する。

12-5 評価

予測結果によると、破碎棟の建設等により現況緑地の一部を撤去するが、事業予定地内に新たに緑地を施すことにより、緑地面積は約 19,000m² となり、緑化率は「緑のまちづくり条例」に基づく規制値 20% を上回る約 28% となる。また、新たな緑地の設置にあたり、現況緑地のバランス等に留意して樹種を選定することにより、現在の緑地環境の維持がなされるものと判断する。

本事業の実施にあたっては、緑地の維持・管理に関する年間スケジュールを立て、清掃、灌水、病虫害の駆除等を計画的に行う等の環境保全措置を講ずることにより、良好な緑地環境の維持に努める。